

主はわが牧者

2021年3月7日

序：150篇の中で最もよく知られている23篇 (by ダビデ)
苦難の中の叫び、戦いの中での祈り、病中の慰め……とは違うテーマ

今日は聖餐式

聖化のための恵みの手段 (by 三位一体の神)

(主キリストに似る者へと、きよめられ成長していく過程)

(救いの完成) への途上

贖い主・救い主と救われた罪人

主と私 (たち) の関係は

- ①羊飼いと羊 主と私
- ②案内人と旅人 あなたと私
- ③主人と来客

I. 主は私の牧者 (飼い主)

ダビデ王は少年時代、羊の世話

サムエルⅡ 7・8

万軍の主はこう仰せられる。「わたしはあなたを、羊の群れを追う牧場からとり、わたしの民イスラエルの王とした。……」

ここでは、自分は羊の一匹 (神の前には王、偉大な勇士の地位や名誉の袂を脱ぐ)
羊＝弱い、戦う武器なし、迷いやすい、視力弱い、愚か、群れていなければ危険
飼い主・養い主・保護者が必要 (生存がかかっている)

緑の牧場ば、青草を食べる所、休息の場所 (飢えを満たし、疲れを癒す)
いこいのみぎわは、きれいな水を飲むところ (渇きを癒す)
野獣が水を求めて来る羊を待ち伏せる

羊飼いが導くままに従う時、何にも不足することがない、必要が満たされ、安全
” は、何が必要か、どこに行けばよいか、いつすればよいかを知っている

マタイ 6・31～33

私たちに必要なものを天の父は知っておられ、すべて与えられる
主は私たちの体のための食物、水を与え、安全を確保してくださる
∴ 私は乏しいことがない (負け惜しみではなく、事実)

羊は草を求めて羊飼いに従って、あちこちに移動する
ダビデは若い時には主君サウルに追われ、老いては実子アブサロムにより放浪を余儀なくされた

Ⅱ. 主は私の導き手

旅人の案内者、同伴者、守り手

孤独感、不安、恐怖、誘惑に打ち負かされそうになった

心は折れ、死んだように塞いだたましいを生き返らせてくださるのは誰？

義の道に導かれるのは誰？

それは愛の神、慈しみ深き神

何のために？ ⇒ 御名のために ⇔ 自分を誇る、頼みとどする
ご性質＋御業

たましいの逼迫、精神的な窮地にさらされていた

しかし、内面の必要・乏しさも主が知っておられ、満たし、守ってくださる

たとい、死の陰の谷を歩むとしても、災いを恐れない

∴ 主が私とともに居られる

∴ むち＝外敵から守る 杖＝迷う羊を引き戻す、道を誤らないように

Ⅲ. 主は旅人を招き入れ、もてなす方

敵の監視、包囲の最中での祝宴

土埃にまみれた足を洗う (cf. イエスが最後の晩餐の前に、弟子たちの足を洗う)

上席に案内

豊かな食事を提供、自らは給仕？ (アブラハムが3人の見知らぬ人たちにした)

頭には香油を注ぐ

手に持つ盃にはあふれるばかりの葡萄酒

私たちは地上の旅人、寄留者 ヘブル 11・13

主は、敵が遠目に見る中で、ご自身の用意された食卓に招いてくださる

主はみことばの糧でもって空腹を満たし、感謝と賛美で盃をあふれさせる

賓客として、香油を注がれる

これからも続く旅に十分に備えられて、元気づけられてまた出発

Ⅳ. 御国に私の永遠の住まいを用意しておられる主

地上の齢を定めておられる

私の地上の旅のすべての行程で守ってくださる (by 慈しみと恵みとが追って来る

妨害者もいっしょに動き出すが、手出しはできない

その日、ついに私は地上の旅を終わり、主の家にいつまでも住まう光榮に浴す
ハレルヤ！ 主が目の前におられる！ 祈りは止むが、賛美の歌は止まない！